

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

旧CAI学会

ニュース・レター No.106



第77回研究会開催のお知らせ

共催 教育システム情報学会東海支部

マルチメディア教材研究部会（部会長 / 磯本征雄）

2000年度最初の研究会を標記のとおり開催します。昨年発足をしたマルチメディア教材研究部会としては2回目研究会です。ご興味のある方々のたくさんのご参加をお待ちしています。

1. 日 時：7月22日（土） 10：00～

2. 場 所：名古屋市立大学 山の畑キャンパス 自然科学研究教育センター1階 会議室

3. 内 容：（一発表25分程度です）

1) 福祉サービスロボットへの利用を目指した指示入力装置の開発

川田博美（愛知工科大学工学部）

2) マルチメディアを意識した学内ネットワークシステム構築

野中登・野村良雄・加藤高明・新木訓典・藤井仁史・小林一信（愛知工科大学）

3) まちづくり教育のための3次元都市モデルの自動生成とその活用

杉原健一（岐阜経済大学経営学部）

4) 名古屋発パワーズオブテンC.G.の制作と活用

毛利勝廣（名大人間情報，市科学館），鈴木雅夫（市科学館），山本晃裕（名大人間情報，富士通），安田孝美（名大情報文化），横井茂樹（名大人間情報）

5) 英検2級用英単語学習ソフトの開発

山本健一（岐阜市立女子短大），山田善久（岐阜経済大学），武田康雄（市邨学園短大）

6) 動画とテキストの動的同期を実現した学習プラットフォーム（1）～英語教育への適用～

大倉孝昭（大谷女子大学）

昼食（12：30～13：30）

7) XMLによる情報検索の効果的手法の一検討

高田伸彦（金沢学院大学），田村武志（大阪府立大学），大沢一彦（東芝アドバンスシステム）

8) RDF，SMILを利用した新たなVOD教育システムの提案

入部百合絵（名古屋大学人間情報学研究科），安田孝美（名古屋大学情報文化学部），横井茂樹（名古屋大学人間情報学研究科）

2頁につづく

9) 理科の実験技能を習得させるための動画の活用

岡谷善博(長野県総合教育センター), 大久保元規(長野市立桜ヶ岡中学校),
大下眞二郎(信州大学工学部)

10) VODとインターネットVODを用いた算数指導

- 比例(6年)のコンテンツ作りと活用について -

熊原精一(長野市大豆島小学校), 八木敏寛(芹田小学校), 荒井澄生(緑ヶ丘小学校),
緑川明廣(NTT東日本長野支店)

休憩(15:10~15:25)

11) 学校間ネットワークを用いたリアルタイム映像配信

松本裕, 緑川明廣(東日本電信電話株式会社長野支店)

12) Webを用いたドリル型CAIシステムによる大学講義とその評価

不破泰, 中村八束, 山崎浩, 大下眞二郎(信州大学工学部)

13) ギガビットイーサネットを使ったマルチメディア教材配信システムとそのプランニング

東野勝治, 中村勝則, 山岸佳和(平安女学院大学)

14) Javaによる統計極限分布地図の教材開発について

丹羽時彦(関西学院高等部)

なお、研究会終了後に、懇親会を開催します。奮ってご参加いただければ幸いです。

問い合わせについては、磯本征雄(名古屋市立大学) email: yisomoto@nsc.nagoya-cu.ac.jp, または、伊藤敏(愛知工科大学) email: itous@aut.ac.jpまで。また、会場案内等についてはホームページに掲載されています。http://www.tcp-ip.or.jp/ itous/jsisemmm

これからのJSiSE研究会日程です。

今年度、6つの研究部会の日程を前号No.105に掲載しましたが、CAI研究部会の開催日が誤ってしまいました。ここであらためてお知らせします。また、まだ決定されていない部会に関しては、今後のニュースレターでお知らせします。または各部会長にお問い合わせください。

第78回研究会 / 企業内教育研究部会, 開催日10月20日(金), 於工学院大学

問い合わせは, E-mail: komatu@azb.nttts.co.jp(小松秀園)

第79回研究会 / インターネットと教育応用研究部会, 開催日12月2日(土), 於東京学芸大学

問い合わせは, E-mail: yokoyama@cs.u-gakugei.ac.jp(横山節雄)

第80回研究会 / CAI研究部会, 開催日12月2日(土), 於電気通信大学

問い合わせは, E-mail: kurose@info.hiro.kindai.ac.jp(黒瀬能幸)

情報教育研究部会, 開催日, 会場未定

問い合わせは, E-mail: yamamoto@sonoda-u.ac.jp(山本恒)

知識・言語処理応用研究部会, 開催日, 会場未定

問い合わせは, E-mail: itoh@te.noda.sut.ac.jp(伊藤紘二)

教育工学関連学協会連合

第6回全国大会開催のご案内

参加予約の申込み締切りは、8月31日（木）です。

平成12年度教育システム情報学会第25回全国大会は、10月7日、8日、9日に、鳴門教育大学で開催されます。本年度は教育工学関連学協会連合第6回全国大会の合同主催学会として参加することになります。参加予約の申込み締切りは、8月31日（木）です。

本年度は、西暦2000年で21世紀を迎える年であり、情報通信革命（ICT）が時代の趨勢として語られております。今回の連合全国大会では、新世紀をリードするICT革命を見据えた将来の教育工学の果たす役割が大きな論点となります。したがって、本年の「全国大会メインテーマ：ICT革命に対応した教育改革を推進する教育工学研究の展開」となっております。情報通信技術の与える社会的影響は大きく、教育においてもこの流れを避けて通れません。教育システム情報学会会員のみなさまにおいては、こうした変革の時代をリードするためにも、この機会にぜひとも出席し討論に参加してください。

今回の全国大会では、基調講演やシンポジウムにおいても、ICT革命に関係した企画が多数盛り込まれております。また、課題研究の多くは、ICTと教育の関わりを取り上げたセッションとなっております。最終日には、スペシャル・セッションが置かれ、密度の高い内容の討論が行われます。教育の在り方が様々な面から問い直されつつある現在において、会員のみなさまが今回の全国大会に出席し、新世紀の教育工学を討論する場への積極的参加をお待ちしております。

大会期日：平成12年10月7～9日

参加申込締切：平成12年8月31日（木）

大会会場：鳴門教育大学（〒772-8502 徳島県鳴門市鳴戸町高島字中島748）

大会プログラムの主要な内容（詳細は3月発行ニュースレターNo.104を参照）

特別記念講演

「世界の情報通信技術（ICT）研究の動向と日本の教育改革」 長尾 真（京都大学総長）

シンポジウム

1 「世界の教育課程と情報教育」

司 会 木村捨雄（鳴門教育大学）、対馬勝英（大阪電気通信大学）
パネリスト 水越敏行（関西大学）、大岩元（慶応義塾大学）、
岡本敏雄（電気通信大学）、西之園晴夫（佛教大学）

2 「ミレニアム初頭の教育改革を支えるICT」

司 会 坂元 昂（メディア教育センター）
パネリスト 清水康敬（東京工業大学）、苗村憲司（慶応義塾大学）、
岡本 薫（文部省）、吉田圭一郎（日本放送協会）

スペシャル・セッション

- 1 「新世代教育工学研究への転換」
- 2 「教育実践研究の方法論」
- 3 「総合的な学習のカリキュラム開発と評価」

課題研究：18セッション

そのほか、一般研究、English Session、自主シンポジウム

JSiSE 東海支部の活動報告

東海支部長 名古屋市立大学 磯本征雄

教育システム情報学会東海支部（磯本征雄支部長）がさる5月20日（土）に総会を開き、昨年度の活動報告や今年度の活動計画を発表して、その内容がこのほど寄せられたので以下に報告します。

東海支部は、5月20日に中部大学技術文化専門学校にて、「幹事会」および「総会」を開催し、以下の議題を審議、承認しました。以下、その概要をお知らせします。

- ・ 1999年度活動報告
- ・ 1999年度決算報告及び監査報告
- ・ 2000年度活動計画
- ・ 2000年度予算案

昨年度の活動のなかでは、学習会が意欲的に開催されたことがあげられる。昨年4月から今年の2月まで8回を数えた。その内容も非常に多岐にわたり、興味深いものばかりだった。

また、本部がおこなった研究会には、東海支部が協賛した研究会として「マルチメディア教材研究部会」があげられる。その発表論文集は第75回研究報告（99.12.11）としてまとまっている。マルチメディア教材研究部会としては第1回目に当たる。この件の問い合わせは、伊藤敏（愛知工科大）まで。<http://www.tcp-ip.or.jp/itous/jsisemmm/>

つぎに2000年度の主な活動計画としては、学習会は毎月1回開催。幹事会は年4回程度開催する。今後の予定として、7月22日（土）にマルチメディア研究部会第2回研究報告会（本支部協賛、於名古屋市大）、9月9日（土）には、現職教員のためのネットワーク講習会（於名城大学）、9月23日（土）には、研究会を開催する。テーマは“総合的学習についての実践的研究”を予定している。

なお、これらの詳細については、東海支部ホームページ<http://jsise.nsc.nagoya-cu.ac.jp/tokai/>をご覧ください。



2000年5月21日～2000年7月5日

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0001709 田邊達雄 広島県立保健福祉大学
JSiSE-A0001710 大久保博樹 駿台法律経済専門学校
JSiSE-A0001711 芳井 智 徳島文理大学（香川校）

JSiSE-A0001712 西谷 正 キクチ眼鏡専門学校
JSiSE-A0001713 郡山 彬 東海大学
JSiSE-A0001714 諏佐友成 日立ソフトエンジニアリング(株)
JSiSE-A0001715 吉武 進 大阪教育大学
JSiSE-A0001716 稲葉宏和 大阪府立大学
JSiSE-A0001717 星野修平 群馬県立医療短期大学
JSiSE-A0001718 前田和昭 中部大学
JSiSE-A0001719 岡谷善博 長野県総合教育センター
—
JSiSE-A0001720 吉田喜彦 中央情報専門学校
JSiSE-A0001721 三田 茂 東京理科大学
JSiSE-A0001722 寺沢邦彦 名城大学
JSiSE-A0001723 大塚喬之 大阪電気通信大学
JSiSE-A0001724 山本直樹 近畿大学

国際会議の案内

ここで紹介されている国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますのでそちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW (<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/hayashi/jsise/conf.htm>) で見ることもできます。

IEEE-VR2001: IEEE Virtual Reality 2001

開催日程：2001年3月13-17日
主催：IEEE Computer Society
開催地：Pacifico Yokohama Conference Center, Yokohama, Japan
論文応募締切：2000年9月1日
URL: <http://www.vr2001.org/>
e-mail: vrsjoffice@star.t.u-tokyo.ac.jp

以下前号にも掲載

HCI International 2001: 9th International Conference on Human-Computer Interaction

開催日程：2001年8月5-10日
開催地：The Fairmont Hotel, New Orleans, LA, USA
論文応募締切：2000年11月5日
URL: <http://hcie2001.engr.wisc.edu>
e-mail: salvendy@ecn.purdue.edu

Interact 2001: the eighth IFIP TC.13 INTER-ACT conference

開催日程：2001年7月9-13日
主催：IFIP
開催地：Waseda University Conference Centre, Tokyo, JAPAN
論文応募締切：2000年11月20日
URL: <http://www.interact2001.com>
e-mail: interact2001@adam.cs.inf.shizuoka.ac.jp

SITE 2001: annual conference of the Society for Information Technology and Teacher Education

開催日程：2001年3月5-10日
主催：ACE
開催地：Orlando, Florida, USA
論文応募締切：2000年10月5日
URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>
e-mail: conf@aace.org

ED-MEDIA 2001: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications

開催日程：2001年6月25-30日
主催：ACE
開催地：Tampere, Finland
論文応募締切：2000年10月26日
URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>
e-mail: conf@aace.org

M/SET 2001: International Conference on Mathematics / Science Education and Technology

開催日程：(中止)
主催：ACE

国際会議案内文責 松原行宏 (香川大学)
matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

第76回 研究報告

【情報教育研究部会】

ここに掲載してあるのは、概要ですが、これらの論文は、研究報告書にあります。ご希望の方は、事務局までFAX(03-3342-0485)、またはE-mailでお申し込みください。1部1300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

この「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方は事務局までご連絡ください。今年度から発行回数が増えています(年間6回予定)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします(教育システム情報学会研究委員長/大下眞二郎)。

- ・開催日：2000年3月21日
- ・場所：園田学園女子大学および工学院大学

1. テレビ会議システムを用いた情報教育

和田利男, 杉本容一

近年の情報通信技術の発達は目覚ましいものであり、インターネットも21世紀の新しい通信基盤としての役割を担うために生まれ変わろうとしている。教育環境においても、教育手段としてネットワークを利用する様々な取り組みがなされている。ここでは、教育環境におけるテレビ会議システムが果たす役割やその動向とテレビ会議システムおよび関連システムの教育環境への応用方法等について報告する。

2. 社会人のための情報教育の実践

山下昌子(立教大), 竹本宜弘(工学院大)

今日社会における情報化の速度は増し、情報化に伴う各々の生活における変化を意識せざるを得ない状況が見られる。ここでは、義務教育や大学での履修科目としての情報リテラシー教育ではなく、社会人が情報リテラシーを学ぶための情報教育としての実践例と受講者の反応や成果等について報告する。

3. 家政学系における栄養情報教育

松下孝太郎・年森敦子(鎌倉女子大学)

情報化社会の進展により、栄養士の養成過程においても情報処理技術、とりわけPCの専門領域への適用は必要不可欠なものになってきている。

本学においても、従来からの講義形式の講義に加え、表計算マクロによって開発した栄養計算ソフトウェアを使用した演習形式の講義を併せて実施している。本稿では、栄養計算実習及び結果の評価という過程においての、栄養計算ソフトウェア導入による教育的効果、及び問題点と課題について述べる。

4. 現行GUIの設計思想および教育方法についての覚え書き(2)

- メーラとブラウザへの対応を中心に -

築雅之(日本工学院専門学校), 竹本宜弘(工学院大学), 洪井二三男(城西大学)

これまで筆者らは本学会ならびに本研究会にて現在主流のOSやアプリケーションの操作法が、2種類のGUIの折衷であることを示し、教授法の体系化の必要性を示してきた。今回の発表では、情報リテラシー教育の中でウェートの高まってきたメーラやブラウザのうち、特にメーラについて、機能、GUIの双方の視点より考察を加えた。得られ知見よりメーラを個人レベルにおける情報処理の中心と位置付けたカリキュラムや教授法の可能性を提案する。

5. 文化系におけるプログラミング教育の実践と考察

橋本はる美・佐野蘭美(摂南大学),
山本麻沙代・高橋喬吉(大阪府立工高専),
松永公廣(摂南大学)

本稿では文化系大学生を対象のプログラミング基

礎教育（C言語）の改善を目的とする教育実践の計画と結果について述べる。過去2年間の実践によっても文化系大学生に対してプログラミング基礎教育（C言語）を行うことが大変難しいことは日々痛感している。しかし社会の要請に答えるためには与えられた条件で教育の工夫を続けなくてはならないと考えている。その特徴は以下である。

講義と演習の組み合わせは従来と変わらないが、学習内容を詳細に分析して教育目標を学習者に明示した、教育目標が明確に表される多肢選択問題を演習問題の中心にした、多肢選択問題の出題形式を工夫した、WebとCGI技術を用いて学習者の回答を判定し正解、不正解をフィードバックした、多数の問題を解かせる。どのような教育の工夫を実践するためには学習者を講義に参加させなくてはならない。本稿では試行しようとしている演習方式は高校教育のテスト方式とシームレスにつながるため学習者にも抵抗感が少ないと考えている。また提出すればすぐさま結果が見えるため学習に対する学習者の個性が表れると考えられる。

6. 幼児がマルチメディアソフトで遊ぶ環境に関する考察

保護者のアンケート結果をもとに

堀田博史・金城洋子（園田学園女子大学）、
高橋純（富山大学大学院）、
新田恵子（園田学園幼稚園）

保育時間中にマルチメディアを使った遊びを取り入れる幼稚園が増えてきているが、多人数が年間カリキュラムで取り組んでいる実践報告は少ない。本稿では、幼児がマルチメディアソフトで遊ぶ環境について、子どもと保護者がともに遊ぶ場を設定し、実際に子どもの遊ぶ様子を見たあとの、保護者のアンケート調査結果をもとに、その留意点を明らかにした。

7. インターネット大学に向けての実験

その概要と教育システムの考え方

山本恒・原克彦・五島邦治・植野雅之
・堀田博史・小田桐良一
・宇治典貞（園田学園女子大学）

（Abstract 省略）

新年度（2000年度）の会費請求をしています。

会費の前納にご協力ください。

4月から新年度（2000年度）を迎えました。さる3月に新年度の会費請求をいたしました。まだご納入をいただけていない方がいらっしゃいます。なにとぞ、会費の前納にご協力いただけますようお願い申し上げます。今回、未納の方のみに請求書と振込用紙を同封しましたので、よろしくおねがい申し上げます。

学会の諸活動は会員みなさまからの会費で運営しております。近年、2年、3年とまとめて納入される方もいらっしゃいますが、学会は単年度予算で運営しています。1年単位の会費納入にご協力くださるよう重ねてお願いいたします。

請求書発行時（約1～2週間前）の行き違いについてはご容赦ください。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

E-mail : secretariat@jsise.org

同封の振込用紙をご利用ください。

2001年春号掲載 特集論文募集

締切は10月1日

テーマは

教育・学習・研修システム開発論文

はじめに：

教育システム情報学会（旧称：CAI学会）では、学会誌2001年度春号（2001年4月発行予定）において、「教育・学習・研修システム開発論文特集」を行います。

近年、さまざまな教育分野・領域で多くの学習・教育システムが開発されるようになってきました。このような現状の中で、単に教育・学習・研修システムを開発したというだけでなく、システムの教育・工学・科学的な意義や有用性を開発・実践の両側面からしっかり議論する場が必要であると考えます。

本学会はその機会を本特集で提供したいと考えています。そのような観点から、教育・学習・研修システム開発に関する新規性に溢れた研究を、また有用性十分な実践を論文にまとめて、ぜひご投稿ください。お待ちしております。

対象分野：

- (1) 教育・学習・研修システムの枠組み、開発事例
- (2) 教育・学習・研修システムの基礎技術
- (3) コンテンツの開発・流通
- (4) 開発システムによる教育実践
- (5) 教育・学習・研修システムの新しい開発環境（オーサリング環境を含む）
- (6) 特定領域で開発された教育・学習・研修システムの分析・整理（論文サーベイを含む）などに関する研究。

論文種別：

今回募集する論文の種別は、「原著論文」、「実践論文」、「ショートノート」、「実践速報」、「資料論文」です。ただし、査読の結果、異なる種別での採録となることもあります（論文種別については、「学会誌原稿執筆要領」を参照してください）。

なお投稿の際、原稿の1ページ目に、論文種別と「教育・学習・研修システム開発論文特集」であることを、必ず明記してください。

制限枚数：

「学会誌原稿執筆要領」に記されている、論文種別による制限枚数の通りとします。

投稿締切：

2000年10月1日事務局必着。

投稿の手続き：

封筒の表に必ず「特集論文原稿在中」と朱書きで記してください。その他の投稿の手続きについては、「学会誌原稿執筆要領」に記されているとおりとします。

問い合わせ・原稿送付先：

教育システム情報学会事務局
〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
工学院大学情報科学センター内
Tel：03-3342-0485 Fax：03-3340-0135
E-mail：secretariat@jsise.org
URL：http://www.jsise.org/